

平成30年度第9回まちづくり懇談会  
「船橋市PTA連合会」

1. 日 時：平成31年2月5日（火） 午前10時～11時
2. 場 所： 市役所9階第2応接室
3. 次 第
4. テーマ： 笑顔があふれる子育てのまち

【議題】

- ①子供たちを守るための環境について
- ②子供の貧困について
- ③食の大切さへの取り組みについて

---

●団体

お忙しい中、お時間をいただきましてありがとうございます。

今日は、日ごろ、家事や子育てに、そしてPTA活動でもご活躍いただき  
おり、また、たくさんの経験や知識がおありになる10名のお母様方にPTA  
連合会（以下P連）を代表して参加いただきました。船橋市の今後のより良い  
まちづくりに活かしていけるような、有意義な懇談会にしていきたいと思いま  
す。どうぞよろしく願いいたします。

○市長

よろしく申し上げます。

今日はお越しくださいましてありがとうございます。また、日ごろからP連  
としての活動とともに、それぞれの学校で子供たちのためにいろいろな活動を  
していただいている皆様に改めて感謝申し上げます。

船橋市も今、人口約63万6,000人超え、政令指定都市を除くと一番人口  
規模の大きな市になりましたが、いろいろな所で子供たちと会って言葉を交わ  
すと、とても元気な子もいればシャイな子もいて、昔とあまり変わってないな  
と感じます。「育てたように子は育つ」という相田みつをさんの言葉がありま  
すが、子供たちの将来は、親だけではなく、やはり社会がどうやって環境をつ

くっていくかによって大きく変わると思っています。今日は皆さんの率直な声をお伺いして、これからの子供たちのために活かしていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

#### ●団体

テーマが「笑顔があふれる子育てのまち」ということで、初めに子供たちを守るための環境について提案します。

学校での不登校についての問題になりますが、どうしたら教室に入れない子供たちが、学校に通えるようになるのか考えました。

先生や大人ではなく、子供たちと近い大学生などに自分の教室じゃない教室で勉強のサポートや学校での困り事など、いろいろな相談にのってもらえたら学校に行きやすくなるのではないかと思います。放課後なんかも活用して、そういう時間をもとに学校に行きやすくなったらいいなと思います。

#### ○市長

不登校の問題はとても大きな課題になっています。教育委員会の先生方と話をすると、不登校には学校生活が原因の子もいるし、貧困や親の育児放棄が原因の子もいたり、いろいろな要因があるんですね。平日の学校や放課後の時間帯にしっかりした人員を確保することや、子供との相性もとても大切になりますので難しい部分もありますが、提案いただいた別教室で大学生がサポートしてくれるというのはいいかもしれないですね。

市としても本当に改善していかなければならない重要な課題と考えていて、今いろいろとやっているところですので、サポートの仕方をどうするかなど教育委員会と話をしてみたいと思います。

#### ●団体

前に学校を訪問した時など、先生がとても忙しいように見受けられました。また、子供からも担任の先生が教室にいない時間があると聞いたこともあります。親の目から見ると、そうしたことが、例えばいじめであったり、不登校につながるのではないかと思います。

そこで、例えば教師をなさっていた方とか、引退されたシニア世代の方が、担任以外で1人教室に入って、子供たちを別の視点から常に見守ってくれたら安心です。

もうひとつは、例えば、今はネットの時代なので、助けて欲しいという情報と助けたいと思っている人の情報をマッチングできるネットワークをつくるなど、行政の方からニーズの発信をしていただけたらと思います。

○市長

教室に先生がいる時間が少なくなっているというのは、子供たちはよく言っていますか。

●団体

はい。子供が小学校に通っていた時ですが、先生は出張とかが結構入ったりしていて、忙しくて話ができないと聞きました。

○市長

以前、教員だった友人から、調べ物が多すぎて、子供たちと向き合う時間をとりたいのになかなかできないと聞いたことがあります。先生たちの根本的な事務量を改善していかないといけません。今、学校の教育現場のもう一方の課題は、中間層の先生がいないことなんです。今の30代、40代の先生の頃は、退職者が少なかったことや、少子化で採用を増やす必要がなかったんですよ。今は若い先生を大量に採用していますが、相談相手がすぐ上の年代の人じゃなくていきなり教務主任とか、教頭先生とか、校長先生になってしまっているようです。学級や授業の運営が難しいところには、サポートの先生が入っていますが、シニア世代でも、子供たちのために何かやってあげたいという人はたくさんいて、実際にそういったボランティア活動をしている方もいます。ただ、学校によって状況は違うので、学校の中でそういった人を入れたほうがいいのか考えてもらうのがいいのではないかと思います。教育委員会は独立した機関なので、伝えさせていただきます。

最近、痛ましい事件についての報道が毎日のようにやっていますが、個人情報  
の取り扱いはとて厳しくなっているため、家庭へのサポートについては  
非常に難しく、手を出したくても出せないケースもあります。 民生委員  
や児童委員、学校の先生が情報を持っていることもあるので、これを融合させ  
るのは少し難しい部分がありますが、ヘルプを求めやすい環境づくりというの  
は、確かにやっていかないといけないと思います。

ただ、実際にやってみるとニーズに合っていないというケースも多々あるの  
で、現場を良く知っているP連等でも、助けを求めるためにはどうしたらいい  
のかをそれぞれで話してもらって、こういう仕組みをつくったらどうですかと  
提案していただけたらと思います。

#### ●団体

P T A活動をやっていると、子供たちを守りたいと強く思っています、  
子供たちのために何か行動するということを負担に思う保護者も残念ながら多  
いと感じており、その保護者たちを、どうやってP T Aの活動に巻き込んでい  
くかがP T Aの課題だと思って取り組んでいます。船橋は地域活動、市民活動  
が活発で、私の両親世代の方がとても多いので、そういう活発な皆さんと、学  
校やP T Aがタッグを組むということは、一つの手なのかなと思っています。  
朝のパトロール、帰りのパトロールの時間帯に地域の方に力を貸していただい  
て、一緒に活動していただけたらと思います。

それが、子供たちが直接地域の方と出会うきっかけとなり、挨拶しながら、  
繋がりを深め、S O Sを言えるような環境をつくっていくのが、子供たちを守  
るという意味で大事なかなと感じています。

#### ○市長

船橋は地域の活動が本当に活発で、特に高齢者の人たちが支えてくれている  
部分がすごく大きいんですね。

#### ●団体

P T Aも地域の方に支えられているなって、活動して初めて知りました。

○市長

ちょっと話がそれてしまいますが、今、町会や自治会等の活動をやっている方たちで、70代から80代の方がたくさんいるじゃないですか。船橋は急に人口が増えたまちなので、今80代のぐらいの人が船橋に来たころは、学校をつくるのに追われて、道路などのインフラの整備になかなか手がつけられなかったんですね。今では考えられないですが、当時は、道路を直すときに市役所に砂利だけもらいに来て、自分たちで道路を直したんです。今の高齢者の人たちは、手づくりでまちをつくったという自負があるんですよね。だから「自分たちも頑張るけど、もうちょっと若い世代の人たちも直接やってくれるといいんだよな」みたいな声も聞きます。みんながそれぞれの立場で何ができるかを立ちどまってじっくり考える必要があるのかもしれないですね。

●団体

地域の方に手伝っていただいて当たり前じゃなくて、感謝の気持ちをあらわして、コミュニケーションをとりながら地域をつくっていく姿勢を、私たちも地域に対しても見せなければいけないと思います。

○市長

例えば、スクールガードの人たちの前をPTAの人が通り過ぎるときに、みんな、挨拶されていますか。

●団体

親が挨拶しないとよく言われるんですよね。

○市長

まずはお互いに挨拶できるようもっとアピールしていくことからかなという気はします。

●団体

そうですね。学校だよりやPTAだよりとかで、「スクールガードの方にご挨拶しましょう」というお声がけをしていければと思います。

#### ●団体

では、次のテーマ「子供の貧困について」に移ります。

子供食堂や学びの場などがどこに開設されているか、学校からのお便りはないので、保護者は把握できていません。船橋市内で行っている団体があれば、行政で取りまとめて保護者へ教えてもらうようなシステムづくりを提案いたします。おそらく子供食堂等を利用して欲しい子供たちの保護者にそういった情報が入りづらいのが現状なのではないかなと思っています。民生委員や児童委員の方々の協力を得て、学校と連携して、保護者も含めて地域として助けていけるシステムがあるといいのかなと感じています。

#### ○市長

子供食堂はスタートの時よりネットワークができてきています。学びの場については、対象となるひとり親や生活保護世帯や、低所得者の子供たちなどの保護者の人にはダイレクトにお知らせをして行っています。まず、学びの場について話しますと、キャパシティの問題があるため、塾に行きたくても行けない子をまずはサポートしていこう、ということでやっています。全員に情報を伝えると、塾に行っている子がわかってしまうなどの問題があるので、対象者にダイレクトにお知らせすることにしています。

子供食堂は校長先生の意識や価値観によって考え方が違うので教育委員会が子供食堂の活動に対する対応を決めて教えないと、知っている子だけが活用しているみたいな状況になってしまうので、これは改善したいと思います。

去年、子供の貧困の実態調査を行いました。市にはいろいろなサポートの制度がありますが、なぜ利用していないのかというと、制度自体を知らなかったという人がいるんですね。周知の仕方が十分ではないので、どういうふうによったら浸透していくかを考えていかなければいけないと思います。

#### ●団体

では、次に「食の大切さへの取り組みについて」です。

●団体

食は人間の一番大切なものだと思うので、ここに力を入れていったらいいのではということを考えてました。

この間、学校の家庭科室でシニアの方たちのボランティアが朝食をつくって、子供たちだけでなく、校長先生をはじめ先生方も食べられる取り組みをやっているのをテレビで見て、すばらしいなと思いました。

ただ、ボランティアの力が必要になってしまうという点があり、日本自体ボランティアが根強くある国ではないので、行政からの援助でボランティアの方たちに、例えば時給300円でも500円でも補助があると、シニアの方だけではなく、子供が小さくて働きに行けないけれども、こういうお手伝いならできるといってお母さんたちなどの若い世代もうまく引き入れていけるのかなと思います。

○市長

家庭科室で朝食を食べる取り組みは、毎日やっているんですか。それとも、週に一度とかですか。

●団体

そこまではちょっと分からないですが、毎日じゃなくても、週に1日でも2日でもちゃんとしたご飯を食べて学校に行って、そのまま教室に入れれば、子供たちにとって全然違うんじゃないかなと感じました。

○市長

そうですね。食に対する意識は本当に大事だと思います。今、大学や会社や学校で朝食を用意というのをやり始めていますが、私の考え方が古いのかもしれませんが、これがあるからそちらで食べればとなってしまう心配もあるのかなと思います。

●団体

確かに、そうですね。

○市長

子供たちにとってどちらが幸せかですね。貧困調査でも、経済的に困っている家庭のほうが孤食とかの率は高くなっていることは確かなんです。

孤食の状況をサポートすることについても、今すぐにどうというのは言えないですが、研究をしてみたいと思います。

●団体

よろしくお願いします。

○市長

何かみんなで楽しく朝ご飯みたいな時間があってもいいかもしれないですね。

●団体

まずは、そこからですね。

○市長

安全が第一なので、誰ができるかということも考えないといけないですね。その辺のセーフティーネットをどこで張るかというのはすごく難しいかもしれませんが調べてみます。

●団体

ありがとうございます。

●団体

私は今、高根台地区の町会の副会長と高校の役員をやっていて、補導委員も6年やり、PTA会長も7、8年やりました。何でやっているかというと、やっぱり点と点を結びたいからです。「ミュージックストリート」などの地域の

イベントにも参加しそれを全部つなげて、私たちは何ができるのかを見つけた  
いからやっているのですが、未だに自分自身何をしていいのかはわかっていま  
せん。どうしたらいいかなって思っています。

○市長

そうですね。これ、非常に難しいことですが、P連で、例えば主任児童委員  
の人を呼んで講演とかをやったことはありますか。

●団体

ないですね。

○市長

情報を得るために主任児童委員の人たちに来てもらって、ディスカッション  
するのもいいかもしれないですね。

船橋でスクールカウンセラーを全小学校に入れましたが、主任児童委員の人  
は、地域で誰が困っているかは知っているけれど、実際に子供たちが学校で何  
に悩んで相談しているかはわからないので、スクールカウンセラーのところに  
どんな相談が来ているのか知りたいと言っていたので、1回、話し合いをして  
もらいました。そうしたら、お互いに不足しているところを補い合えたんです  
よね。

情報を共有していくことは本当に大切なことなので、ぜひそういう取組みを  
してもらおうとか、そこに、例えばP T Aやほかのジャンルの人たちにも集まっ  
てもらって一緒にやってもらおうといいかもしれません。

ぜひ1回、主任児童委員の人や民生委員の人に、最近のことを聞く機会をつ  
くってもらおうといいのかなと思います。

●団体

ありがとうございます。そうですね、また会長とも相談して、検討してみま  
す。

## ●団体

今までの話とは少し変わってしまうかと思うんですけども、私たちはあまり船橋のことを知らないなので、まず船橋のことを知って、それにより船橋が好きになって、船橋に誇りを持ってくれる子供たちが、大人になった時にふるさとの船橋をまた好きになってくれるというような循環がくれたらいいなと思っています。

船橋のことを調べましたら、神社仏閣の行事をいろいろなところでされていたり、遺跡も200カ所以上あったり、著名な方のゆかりある場所とかもありましたので、もっともっと知りたいなと思いました。子供たちといろいろな場所をめぐれたら、船橋っていいまちだねというのを実感できると思いました。

「船橋アンバサダー」「キッズアンバサダー」みたいなものをつくって、スタンラリー形式で遺跡めぐりをしたりして、それをクリアしたらアンバサダーとして認められるといったような地域が好きになる活動を提案したいと思っています。

## ○市長

おもしろいですね。船橋で生まれた子供も、いろいろなところから移ってきている子供もたくさんいる状況ですので、市からいろいろと情報提供はしているつもりですが、まだまだ十分ではないと感じています。実際に訪れてもらうのが船橋を知るのに一番良いので、「キッズアンバサダー」はとてもおもしろいと思います。ぜひ検討してみます。

船橋の成人式はその年の新成人たちが企画運営をしているのですが、成人式が終わったときに「船橋を意識するってどういうとき？」って毎年聞くんです。すると必ず出てくるのが、学校とお祭り。やっぱり学校が1番で、その次が地域のお祭りなんですよ。小学校では卒業するまでに、郷土資料館に行くとか、環境学習館に行って船橋の海のことを学ぶというのをやっていますが、地域のお祭りなどにも、もっと触れてもらえる機会をつくっていかねばならないと思います。

新船橋駅前のショッピングモールのすぐ近くにある飛ノ台史跡公園博物館で取掛西貝塚（※）の展示をやっています。とてもおもしろいので、そういったところにまずは連れて行ってもらえるといいかなと思います。

#### ※取掛西貝塚

船橋市飯山満町一丁目・米ヶ崎町にある縄文時代早期前半（約1万年前）及び前期（6千年前）の遺跡。平成28年から市で初となる国史跡指定を目指し調査を開始し、遺跡を保存し未来に残すため発掘調査を行っている。

船橋市の縄文時代を専門とした博物館である飛ノ台史跡公園博物館では、貝層の剥ぎ取りなどを展示している。

#### ●団体

海神南小学校ではひまわり110番のウォークラリーイベントを行っていて、コンビニやスーパーなどにスタンプを置いて、何かあったらここに逃げ込むんだよというのを親子で参加して知っていただくという取組みをしています。

#### ○市長

それはとても素晴らしい取組みですね。場所も確認できるし、何より見守ってくれている人の顔がわかるということは子供も保護者も本当に心強いと思います。

ひまわり110番はP連でやっていただいていますけど、今、個人宅がだんだんと高齢化し受け入れることができないという家もありますが、コンビニの活用をはじめ、いろいろな可能性が考えられるので、「こういうところでひまわり110番をやってもらえるといいよね」という情報をいただきながら、ぜひ協力してやっていきたいと思います。

#### ●団体

先日、近所の工事会社の現場の方からP連に、工事現場でひまわり110番のプレートをつけたいと連絡をいただいたんですね。「学校の近くで工事をしているので子供たちには十分な配慮をして、声かけも必ずするように職員には

徹底しています」と言ってくださって、工事の方たちは、子供たちにいつも「行ってらっしゃい」とか「おかえり」って声をかけてくださるすごく素敵な方々だったので、そういう企業の取り組みとかを取り入れたひまわり110番のあり方もいいのかなと思いました。

○市長

それは素晴らしいですね。

●団体

「子供たちを見守っています！」みたいなものをちょっと貼っていただくとか、声かけを職員の方にしていただくとか、そういうのはすごくありがたいなと思いました。

○市長

特に地元企業は地元に着しているもので、これは参考にさせていただきます。

●団体

本日はありがとうございました。最後に市長よりコメントを頂戴したいと思います。

○市長

今日はどうもありがとうございました。こうして時間をきちんととってやりとりをさせてもらえると、いろいろ参考になる大きなヒントがたくさんあって、教育委員会と一緒にやらなければいけないこともたくさんあるなど改めて思います。

先生方によく話をするのですが、今活躍している子だけでなく目立たない子をどの位その子に向いているところまで引き上げられるかが、教育としては一番の実力を出すところだと思っています。

こういうやりとりを重ねていくことが本当に大切だと思いますので、またよろしくをお願いします。

●団体

ありがとうございました。

— 了 —